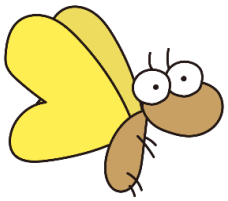
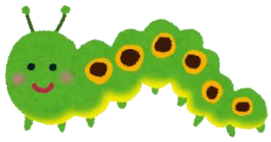
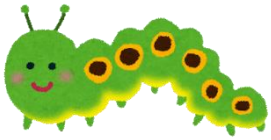


心揺れる体験が子どもを育てる

仲嶺　真弓

出勤途中の道路を、８センチほどの青虫が横断していました。車を運転していてもその力強くうごめく姿は、くっきりと私の視野に飛び込んできました。あまりにもリアルに“生きる“を感じた朝でした。その青虫をどうするか…。後続車にひかれてしまうかもしれない、鳥にみつかり食べられてしまうかもしれない。それも自然の摂理か…。と思いつつ、車から降りて見ても、変わらずに必死に道路を横断している青虫。手に取らずにはいられない私でした。最初は自然の摂理に反して青虫を道路わきの草むらにおいてあげたかっただけだったのですが、ふと、この青虫を子どもたちが見たらどんな表情をみせてくれるだろうか。青虫がさなぎになり、蝶に変身していく姿を見られたら、子どもたちはどんなことを心で感じるのだろう。そんなことが頭に浮かび、ワクワクしてきました。青虫さんにはわるいけれど、これも何かの縁。子どもたちのために一役かってもらうことにしました。さて、何組さんに持っていこうかと考えながら保育園に到着。その日１番目に出会った職員に声をかけてみることにしました。出会ったのは３歳児担任の吉井保育士でした。「3 歳児で青虫さん育ててみない？」と声をかけたら、即答で OK。吉井保育士はさっそく、登園してきた子どもたちに青虫さんを見せていました。さて、3 歳児の子どもたちと青虫さんの共同生活はどうなるのか。来月のつばさっ子の記事にならないかと密かに期待している私です。そういえば余談ですが、年度はじめの行事“親子まつり“の配信ビデオで彼女（吉井保育士）は、はらぺこ青虫になりきって園紹介をしてくれたことを思い出しました。本当に何かの縁なのかも…。変化していく青虫さんと、３歳児の子どもたちの微妙な心の揺れの体験の１つになればと思いながら、ぱんだ組を覗いてみたいと思います。

９月に入り、４・５歳児クラスでは、本格的に運動会の取り組みが始まりました。つばさっ子９月号で池本主任文章でつばさ運動会について少しふれていましたが、日頃のあそびの中で培った力を、子どもたち自身がしたいと思うことを選び、取り組む過程を大切にしているつばさ運動会です。毎年保護者からは「一風変わった運動会」と言う感想を頂くことが多いです。主役は子どもたち。大人は、ただひたすらに子どもたちの心の揺れを拾いながらサポートします。日々の保育の中での運動会に向けて取り組む子どもたちの姿はさまざま。自分でしたいと決めたことでも、友達が取り組む姿を見て感化され、したいことが変わっていく子もいれば、最初からこれ！と決めたことを、少し迷ってもやっぱりこれと貫き通す子もいます。どちらにせよ、子どもたちは他者（他の子どもたち）の姿を通して、等身大の自分を知っていく大切な過程です。やりたいけどできなかったらどうしよう…、でもやってみたい…、でも恥ずかしい…、子どもたちは揺れる心の中で自分がしたいことが徐々に明確になります。心を揺れる体験が心を育むことに繋がります。５歳児になると、少し挑戦する気持ちも芽生えます。挑戦したいけど、できないかも…。心の揺れは４歳児よりも５歳児の方が少し高度。年長さんのプライドを感じます。日々の、子どもたちの心の揺れをしっかりキャッチしながら、運動会当日を迎えたいと思います。４・５歳児の子どもたちの様子は、運動会ニュース No.2 として P12～15 のクラスのページに載せていますのでぜひご覧ください。

毎年、運動会は個々のこどもの成長がリアルに見えるドラマの連続で、個性が輝く自己紹介の場でありたいと思っています。そこで子どもたちを一緒に見守っていただける保護者の方にお願いがあります。「できる・できない」の視点で子どもたちを見ることに重点をおくのではなく、子どもたちが自分で決めたことにどう取り組むのか、取り組みに向かう表情や姿を見ることに視点をおいて子どもたちを見守ってやってください。よろしくお願いします。

　そして、運動会という日常とは違う雰囲気の中で、どんなシーンも、子どもたちが織り成すかけがえのないドラマを、保護者の方と一緒に見守り、手に汗握りながら、子どもたちの応援をしたいと思います。

※10/16（土）は４・５歳児の運動会です。雨天の日はホールでします。
４・５ 歳児の子どもたちが主役の行事を、一人でも多くの職員でサポートしたいと思っていますので、当日は可能なら、家庭保育の協力をお願いします。